

定 一 部 五 銭
 郵 送 五 銭
 廣 告 五 銭
 字 體 一 行 五 銭
 料 五 銭
 日 報 一 日 五 銭
 日 報 一 日 五 銭
 日 報 一 日 五 銭

發行兼編輯人 川崎文治
 印刷所 福島縣石城郡平町長崎町廿五番地
 發行所 常盤毎日新聞社

常盤新報

刊 夕 日 八 月 一

小川郷産
 御影石各種
 玉石ありあり
 コング用の
 ワイト用
 砂利及び砂
 中山岩 採掘
 土木請負業
 石材商會
 平町南町火見下
 電話呼出二六七番

一冊の代金で
 御希望通りな
 五冊の雑誌が
 自由に読める
 平町長崎町三
 川崎回文庫
 (市込大湯規則書進呈)

帝國キネマ撮影所苦心作品
猿渡虎太郎 卷全
 實川延松得意の忍術・嵐瑠徳大助演
 映畫劇 **孝行兵士** 卷全
 松本泰助・歌川八重子共演
 時代劇、(東京朝日新聞連載)
清水次郎長 全四篇 卷全
 廿一卷 卷全
 嵐瑠徳・尾上紋十郎・松枝つる子・實川延
 松・市川百之助・大共演
 蘆屋現代映畫
呪の船 卷全
 『三代に跨がる運命悲曲』柳ささ子主演
 士曜、日曜學生デー
有聲座
 直營 電話四四六番

是非……
 粹で上品な履物を
 御求めの際は
 平町二丁目 電話一五六番
三井履物店

是 非 ……
 粹で上品な履物を
 御求めの際は
 平町二丁目 電話一五六番
三井履物店

世界大戰を一區劃として日本
 本地位は一足飛びに向上
 した、併しながらこの向上
 は堅實なる地盤の上に立脚
 したものでなかつた、之れ
 を經濟的に見るに戦時中に
 開拓したる海外の新市場は
 戦後に至り、一日に衰頹
 しつつあり、二十餘億の正
 貨も連年の輸入超過の爲め
 に今や漸次減少せむとする
 の状態にある加ふるに未曾
 有の大震災に逢遭したので

寄 書
 信念を確めよ
 政界通人

山古印醬油
 美味
 經濟
 元 造 釀
塩屋本
 店 本 屋 塩
 番 七 二 話 電

平町船
吉田眼科醫院
 電話四三番

銀 な べ
 毎度特別の御ひえきを頂き居ります御
 恩 報ゆる爲め此の度「ぎんなべ」
 を設備致しまして食進家諸賢の御満足をいた
 ざさたく存じます、何卒従来同様運び御風味
 の程を御願いたします
 平町田町
 氷 牛 肉 販賣元 石 川 亭
 電話四三番

電話新設披露
 電話 三 五 八
 平町鎌田町
金成醫院
 外科、内科
 婦人科
 花柳病科
 金成忠義

財界の不況益々甚だしく國
 際爲替の暴落を來し物價の
 騰貴を繼續しつつ、茲に不景
 氣の裡に越年するの己なき
 に至つたのである、之れを
 社會的に見れば政府の行政
 財政整理は民間に於ける經
 濟不況と相並行して失業者
 を激増せしめさなきだに困
 難なる失業問題を極度に險
 惡ならしめんとしつつある
 我國内の状態が斯の如くな
 るに際して世界の大勢は如
 何に動きつつあるか先進諸
 國は何れも覺醒して急速に
 大戦當時の創痍を醫し新た
 なる國家觀念の上に着々と
 して積極的施設を企圖しつ
 つあるのである、之を英米

兩國總選舉の跡に見るも之
 等の國に於ける民衆思潮の
 意氣軒昂を想見するに足る
 ではないか、元來我國は土
 地狭く人口多く天賦の資源
 乏しくして然も工業國とし
 ての素養訓練未だ先進國に
 及ばないのである、云はゞ
 逆境に於かれたる青年に等
 しい、故に我國の執るべき
 將來の方針は唯だ萬難に屈
 せず勇往邁進の意氣を以つ
 て國家の運命を開拓せむと
 する國民精神の作興にあら
 ねばならぬ (續く)

平町田町 電話三三三番
丸登式株店
 川添房二郎

株式賣買中値
 電話に金融致し

銘柄	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五三・五
平銀行	五〇〇	六八・〇
磐城銀行	一一・五	一〇・五
磐城銀行	五〇・〇	四二・〇
磐城銀行	三〇・〇	二八・〇
田村實業	一一・五	一一・五
四倉銀行	一七・五	一七・五
農工銀行	二〇・〇	二五・〇
同 新	一五・〇	一九・〇
同 新	五〇・〇	五二・五
同 新	一一・五	一四・五
同 新	一一・五	九・八
同 新	五〇・〇	四五・〇
同 新	二五・〇	二二・五
只見川電	一一・五	七・五
植田水電	一一・五	一五・五
好問水電	一一・五	一三・〇
磐城建物	一一・五	一六・〇
磐城製菓	二〇・〇	二五・〇
平信託	五〇・〇	二五・〇
磐城勸業	一一・五	一三・五
植田物産	三〇・〇	二六・〇
平製氷	二五・〇	一八・〇
好問軌道	五〇・〇	三〇・〇
入山新	三三・五	一七・〇
小田炭礦	二五・〇	一〇・〇
磐城炭礦	五〇・〇	四一・〇
同 新	一一・五	一八・〇
磐城セメン	五〇・〇	六五・〇
同 新	三五・〇	四四・〇
平運送	一一・五	八・〇

賣買誠實懇切機敏に御取扱
 申候間多少に不拘御用命願
 上候

成績まれな平局は 確に東北の貯金王国

郵便の貯金臺帳が 豫想外な景氣を示す

新年早々平の景氣を見ると豫想外で郵便局の貯金台帳を見ては現在高五十餘萬圓で仙台局に對峙し、震災後全国的に激減した同貯金額が平局では昨年十月一萬圓を減じたのみで各月共に從來に劣る所なく不景氣風に閉ぢられた去十二月の如き

新任櫻村平署長の 第一印象は及第點

好評を以て迎へらる

平警察新任櫻村署長は來任未だ旬日なるにも拘らず消防組員各新聞關係者等より頗る好評を以て迎へられ殊に四日消防組出初め式當日に於ける組員に對する訓示の如きは簡單にして内容豊富實に堂々たるもので歴代

早くも策戦 平町々議改選

氣早速は

今から注目されて居る平町會議員の選舉は五月執行の等で野心家は準備に怠りなく新春を迎ふると共に早くも策戦し暗中飛躍を試みて居るらしく町政に對する町民の自覺を喚起し革新の氣が漲つて來て居るやうであるから當選すべき議員の顔振れは可なり異動あるべく從來の如く一級に於て七八票で當選するやうな事は出來ず隨つて運動の方法其他についても相當考慮を要する

町村長會議 利用組合協議

石城郡町村長會議は十四日

一毛作 品評會 賞狀授與式舉行

平町農會主催二毛作品評會

平町農會主催二毛作品評會賞狀授與式は十一日午後一時から長橋町性源寺に於て舉行し石城農事試驗分場長杉田技師の蔬菜栽培に關する講演あり終つて尼子亭に懇親會を催すと因に授賞者は左の如くである

- △紫雲英(一等)菅野宇吉 (二等)鈴木守彌、猪狩喜惣平(三等)鈴木惣五郎、三森長次郎、猪猪惣平、(四等)佐藤廣之助、阿部長次郎、青木甚平、志賀直作
- △麥(二等)伊藤庄次郎、鈴木仙次郎(三等)伴喜三治、吉村富吉、猪狩幾次

六月頃から 一齊に施行

徴兵検査は

來たる十日の新兵さんの入營が一段落を告げると例年ならばすぐ全國壯丁の徴兵検査の準備に取りかゝるのであるが今年は例の四箇師團減少の大鈍の爲め各聯隊區は管區が不明で未だ五里霧中の形である従つて例年四月十五日頃から開始され

し白熱的の決戦が演ぜられるものと觀られてゐる

不具の遺児を引連れ 全國に講演の行脚

平町にて講演會を開く 川村元高師教授

石城郡教育會主催の川村理助氏講演會は十八日午前九時より平第一小學校に於て開催される筈であるが講師川村氏は元東京高等師範學校教授であつて夫人に死別して、精神に異常を呈した遺児一名を引連れ全國を行脚し自己の体験からニジみ出した社會教養に關する血の如き叫びを擧げて各地に講演を試みて居る有名な人である

大繁昌の 平職業紹介所

松の内から

舊歲末を目前に控へたる平職業紹介所の昨今は世は擧げて新春の祝酒に酔ふ杵の内なるに拘らず一は賑ひ



家庭欄

足袋のつくり方

体裁も何もなかつた刺子にするなら兎も角、できるだけ目たぬやうにしよとすると足袋のつくり方は案外

日午後一時より平町田丸新館に於て新年會を兼ね素談會を催したが東京より鳥越一氏が來平出席者五十餘名にて盛會であつたと

磐崎義士會 討人の日に

石城郡磐崎村農業補習學校

主催義士會は本日舊曆十二月十四日赤穂義士討入りの日に當る爲め午後七時から同村小學校に於て開催、會員の義士に關する講演及び浪花節や琵琶の餘興等もある由

紋切り型の 十七娘の家出

カケ落らしい

石城郡湯本町入山第四坑中野目吉左工門長女中野目マツ(七)は昨日午後二時二十五分湯本驛發上り列車にて川尻驛迄の切符を持つた儘無断逃走したが情夫があつたらしいから紋切り型の墮落であらうと

杉立木盗伐 平署の取調

石城郡川前村大字上桶賣字

面倒なものです、一番きれなのは鼻緒の下瓜先底なごですが鼻緒の下は布目通り縦に眞直にさします。小さい孔は其まゝシツケ糸を二寸にとつて刺せばよいのですが、大きい所は表と裏との間に洒木綿か他の古足袋の表を孔より大きく切つて挟み込み、やはりシツケ

小學校長會議 平町

外九ヶ村の第三回小學校會議は十七日午後一時から平第二小學校にて開會する

平町人事

- △才畑小路二、佐久間利仲氏長女 澄子
- △南町一〇 柴野孝太郎氏三男三郎
- △南町五九 熊谷泰治氏二女美智子
- △仲町二 前田力氏長女惠子
- △鍛冶町八 山崎忠雄氏長女信子
- △三丁目五三 機械職大平長三氏郎 口せ(二)
- △四丁目一 雜業鈴木義滿氏(二)
- △六 茨城縣行方郡鈴木木(二五)
- △南町四九 吉村繁(五つ)
- △新川町二 當時石城郡内郷村草野音吉(七五)

農銀支店長 頗る氣受よし

河西氏が

農工銀行平支店長平山勝治氏は昨年未辭職したので同店次長たりし河西八十治氏が一月一日附支店長に就任した新支店長は先代永井支

耳の兎

不思議な赤ん坊 大分縣大分郡南庄内村平田町市郎妻百代は舊臘廿八日

女兒を分娩したがその嬰兒は兩腕からわき腹にかけ蝙蝠のやうな膜になつた皮膚が連なり兩手の指の間にもみづかきのやうな膜があり口はみづくちといふ畸形兒である